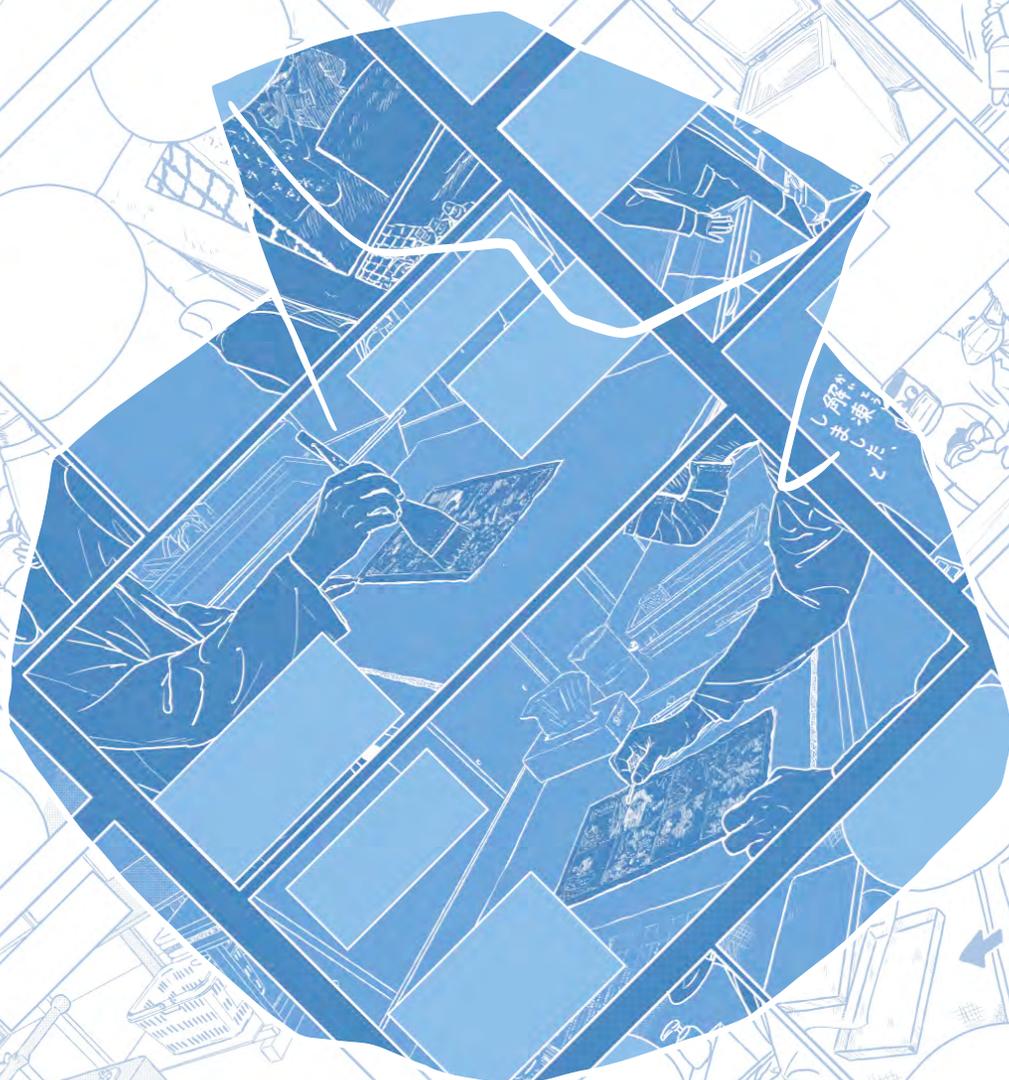


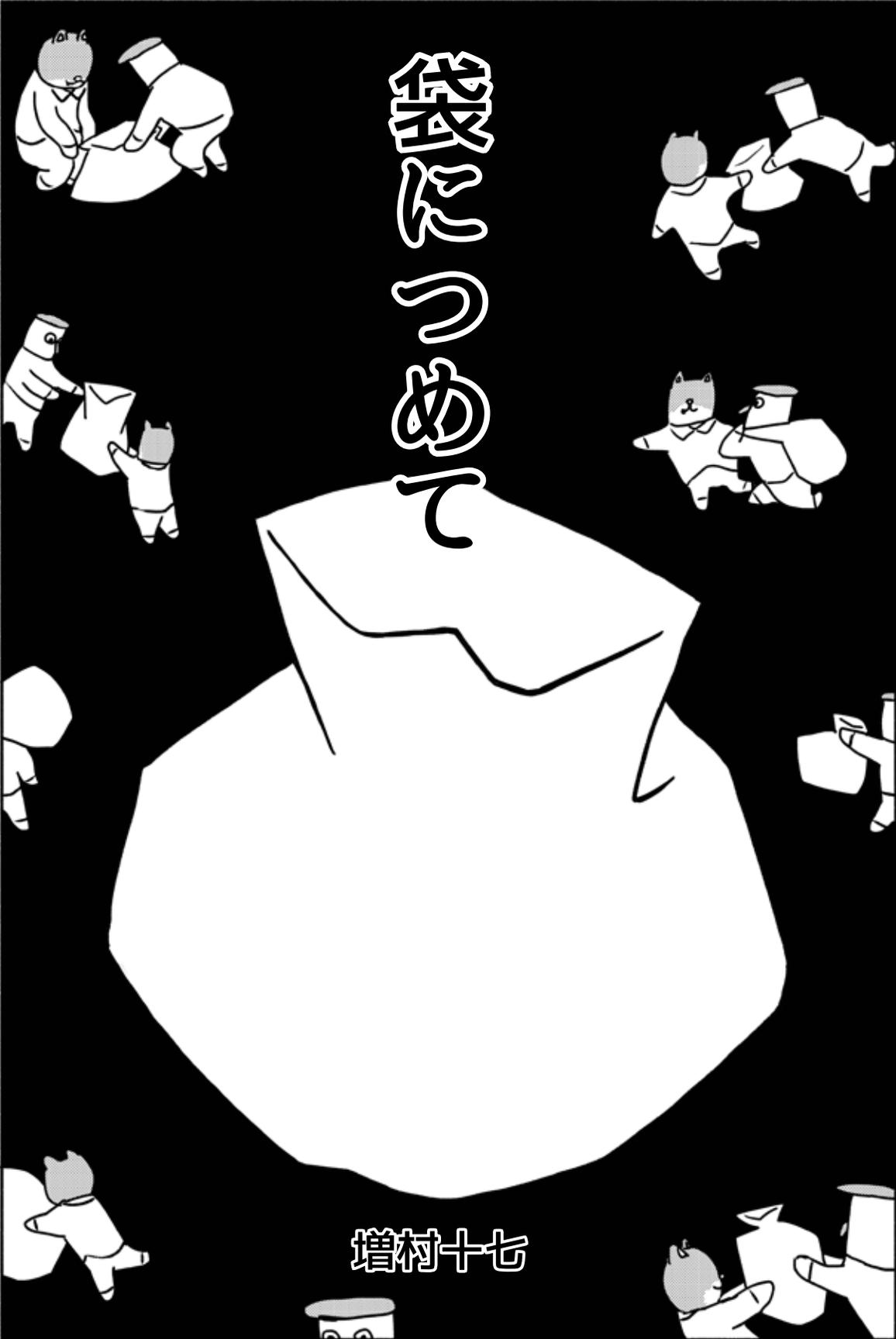
川崎市市民ミュージアム
被災漫画原画修復の記録

袋につめて

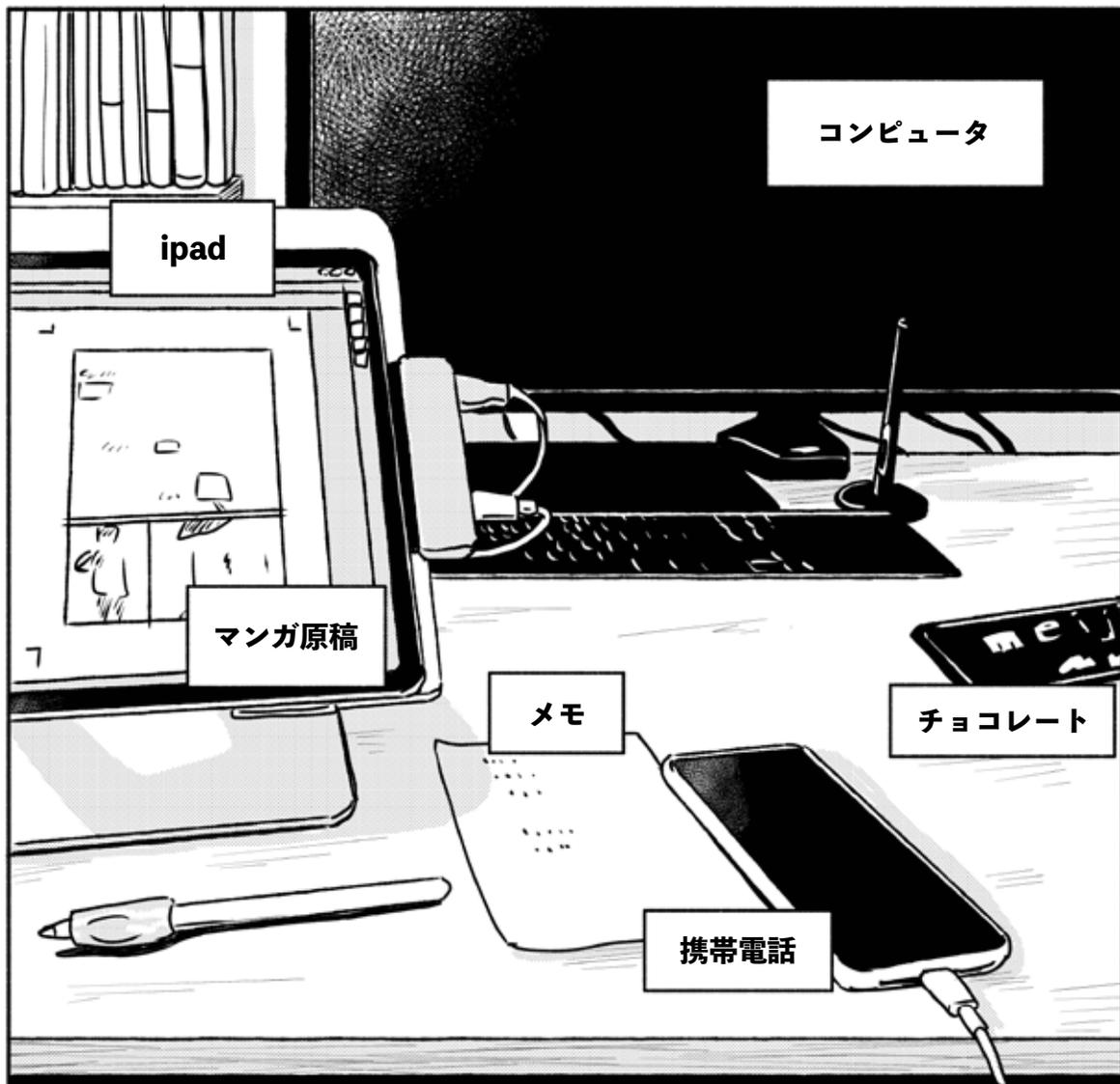


増村十七

袋をりめて

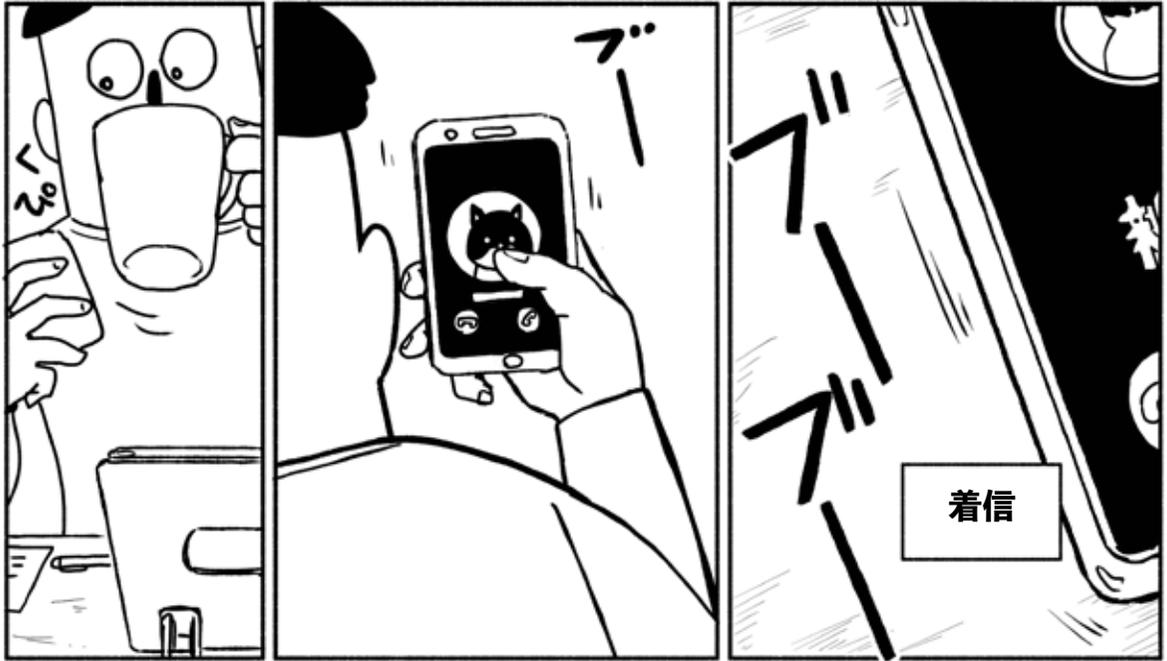


増村十七



うまくいかない







川崎市市民ミュージアム
2019年の台風被害……

被災の様子の
写真ももらったけど
すごいねえ

大変
だったよ～

今も
大変だけど



はい～
届いてるよ
ありがたいです



いや……
でもそうね

難しいと
いうか……

うーん

アリガとね



あ
修復対象の
作家は四人に
決まったんだよね

そうそう もう一度
今回のプロジェクト
抑え直しますね



「被災漫画原稿の
修復作業の
漫画によるレポート」
なんて難しいよね

いえ
それは全然！
楽しいんだけど

資料も沢山
いただけてるし

ししどきこう
宍戸左行
(1888-1969)



代表作の
『スピード太郎』は
1930年代にカラーで
描かれた子供向け漫画

今回は年代で分けた
四人の作家の約400枚の
漫画原稿を修復していきます

被害にあった
所蔵作品の修復とともに
使用された画材や
制作スタイルが異なる
別々の年代の作品を
手がけることで

今後の漫画原稿修復の
知見を蓄積するという
狙いもある



ド迫力だ

戦前の段階で
アクションマンガの
基礎は出来てたんだ



2

似顔絵の名手で
諷刺画やコマ割り漫画も
幅広く手がけており
制作スタイルごとに
紙や描画技法を多様に
使い分けていました

2人目は
しみずこん
清水崑
(1912-1974)



ちなみに 落語家の
林家木久扇師匠は
もともと漫画家志望で
最初はこの人の
弟子でした



豆知識だ



© 清水崑

3人目は
くすのきしょうへい
楠 勝平
(1944-1974)

この時代になると
物語漫画が隆盛となって
ページ数の多い作品が増え

マンガ専用の原稿用紙や
スクリーントーン 写植など
様々な漫画用の画材が
使われるようになっていきます

漫画制作には
使いやすいけど
長期保存を考えて
作られた道具ばかり
ではないだろうね

それにしても
抜群に上手い……



30歳で亡くなった
作家です
残念だよ



4人目は
よこやまゆういち
横山裕一
(1967-)

完全に現代作家ですね

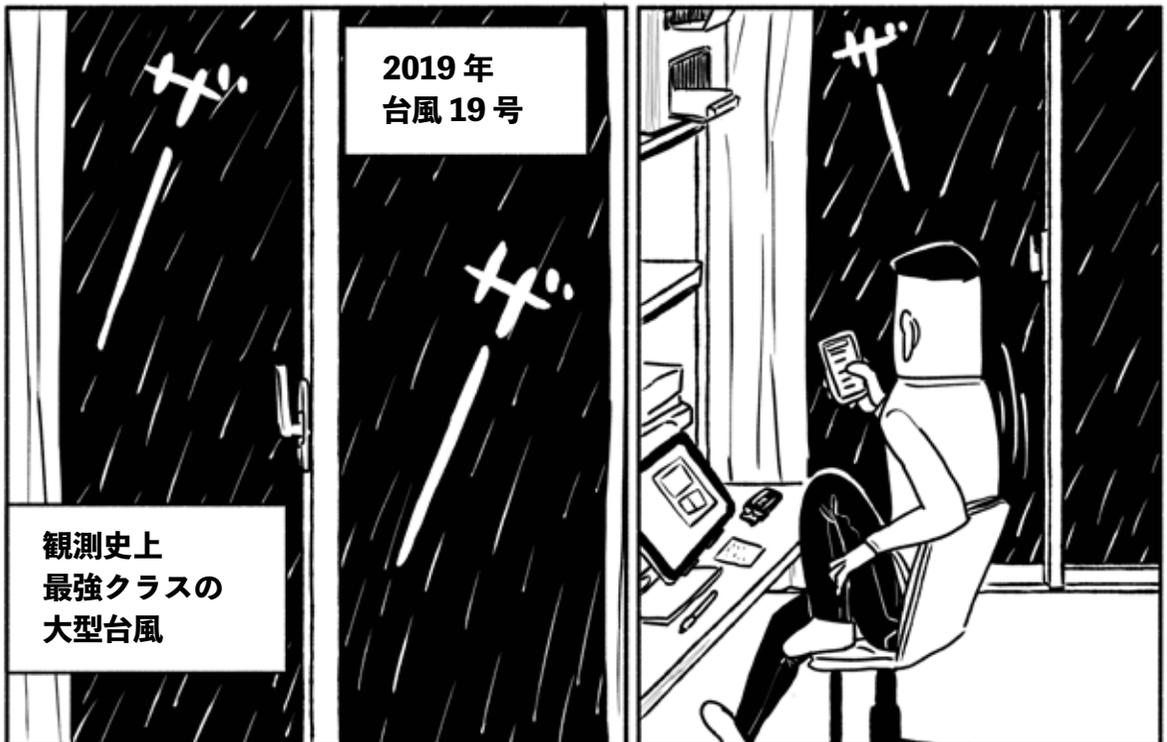
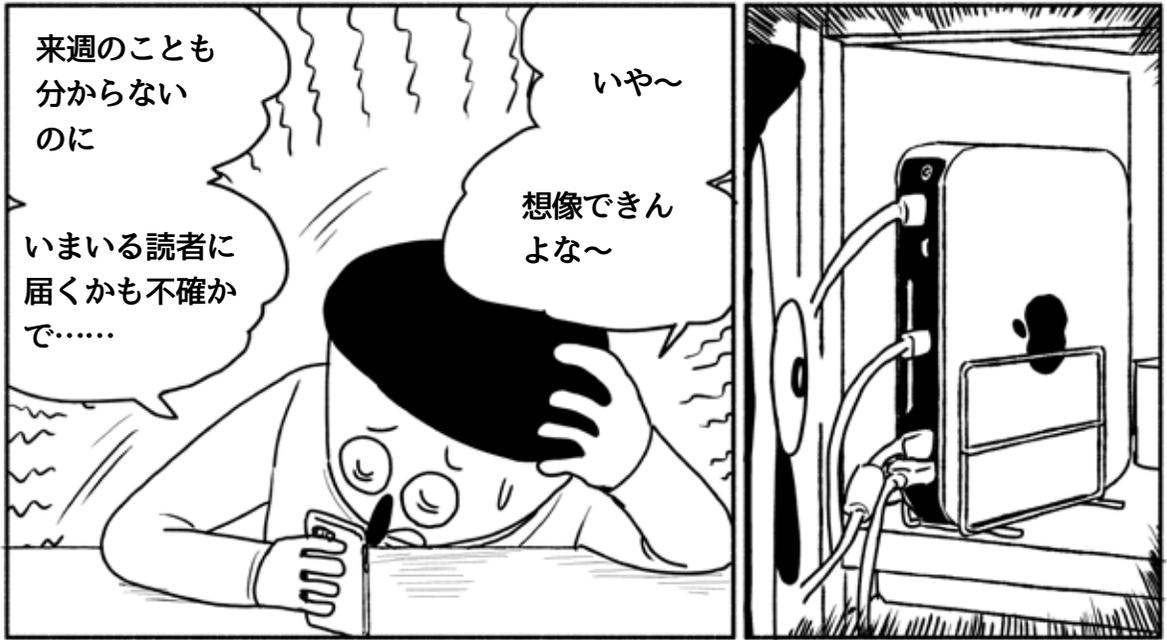
画材も楠の時代よりさらに
現代的な大量生産のものに
変化しているはずなので
そのあたりを注目しています



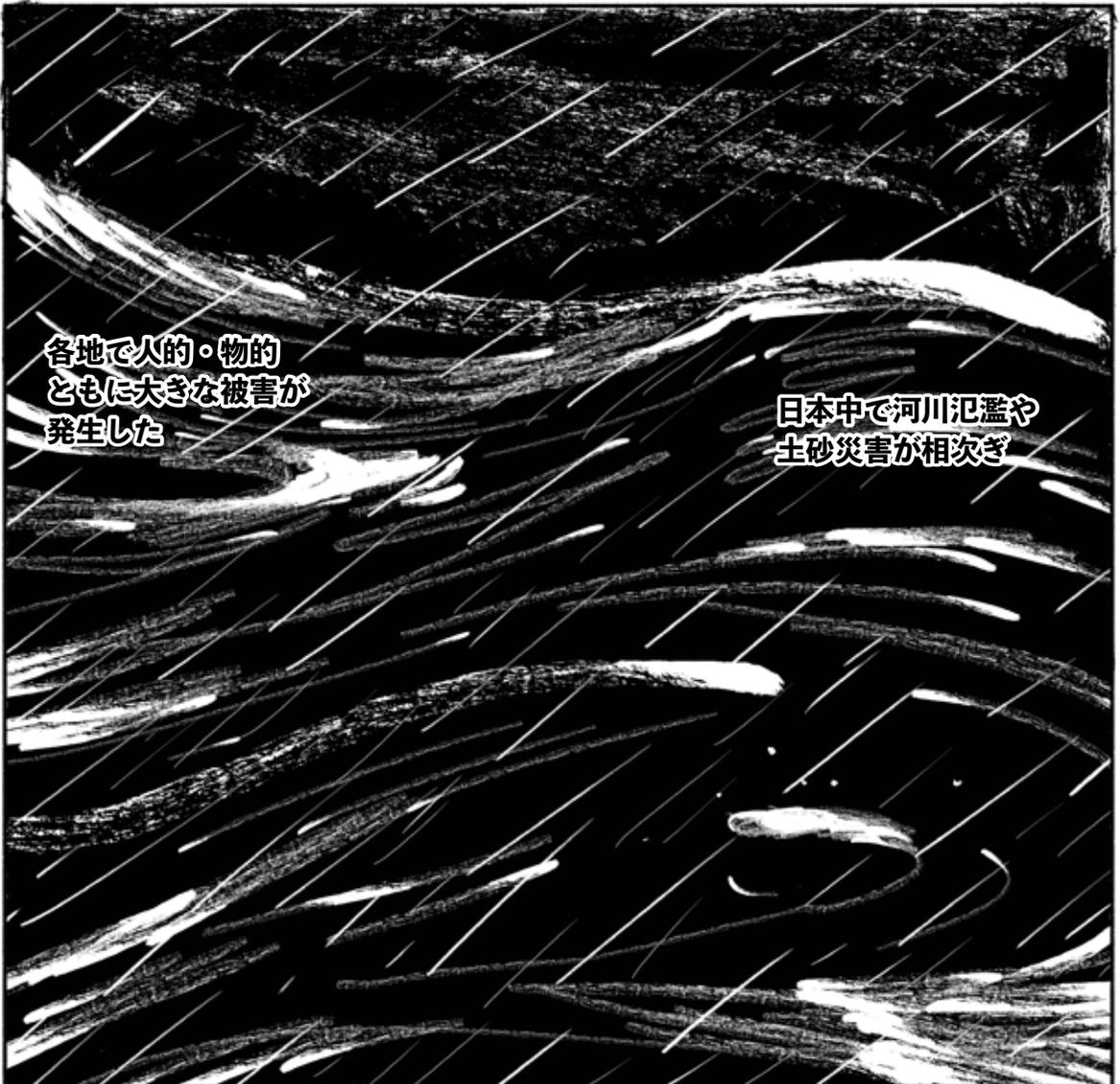
横山先生の作品なら
今の若い読者も
どこかで見かけたり
本を持ってる人も
多いでしょうね











各地で人的・物的
ともに大きな被害が
発生した

日本中で河川氾濫や
土砂災害が相次ぎ



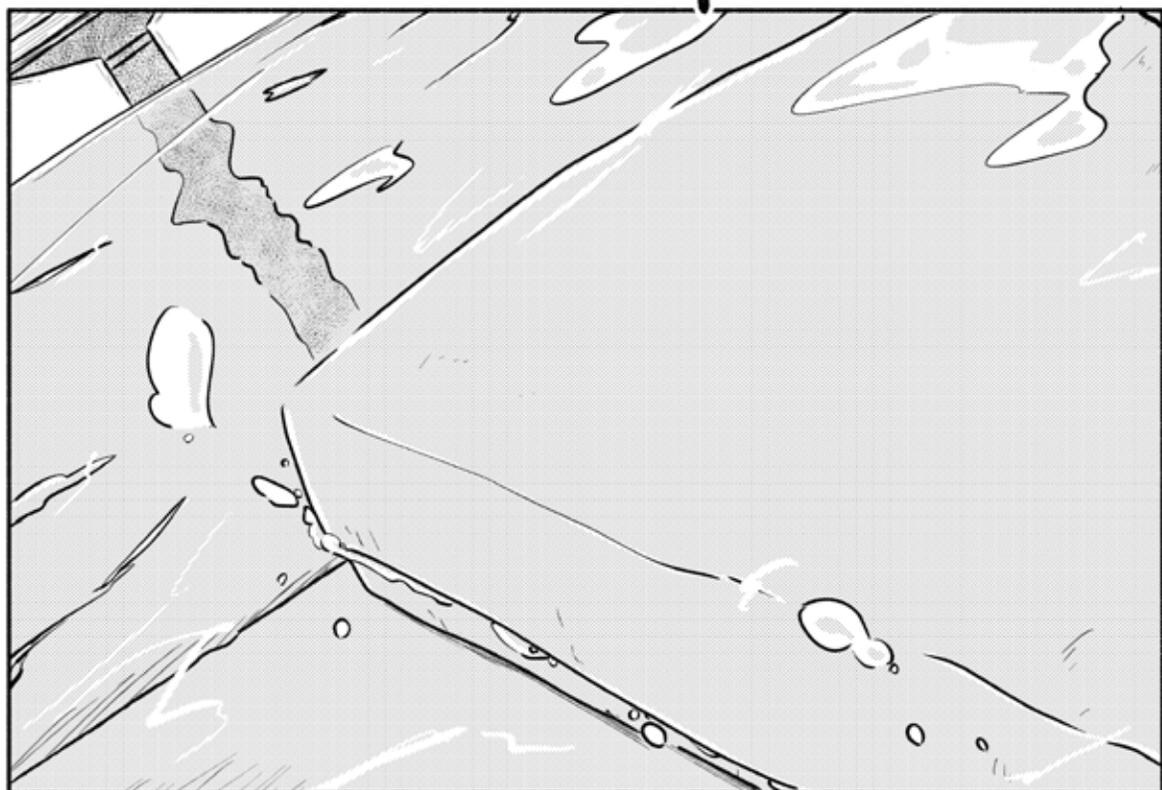
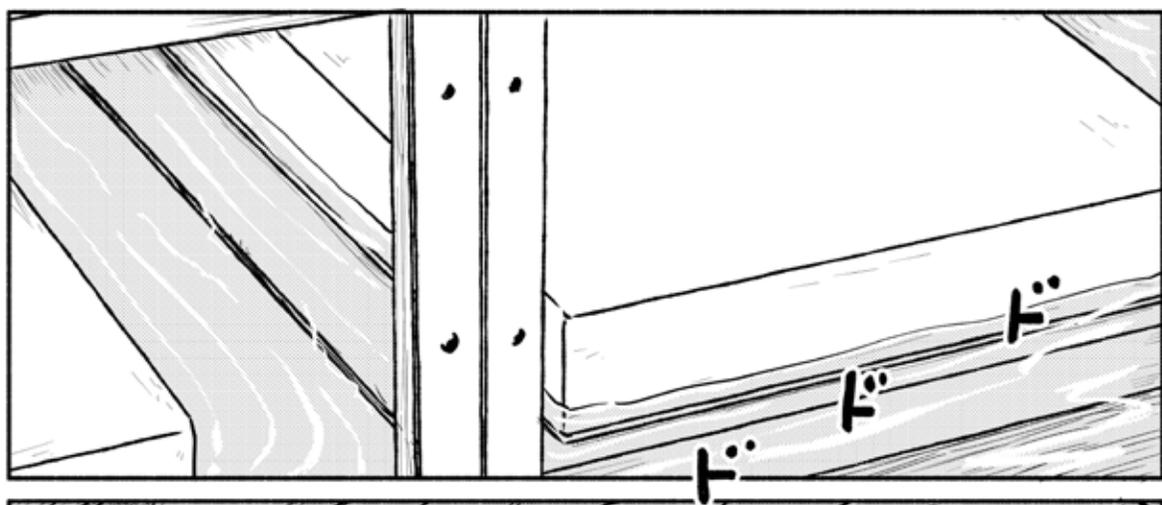
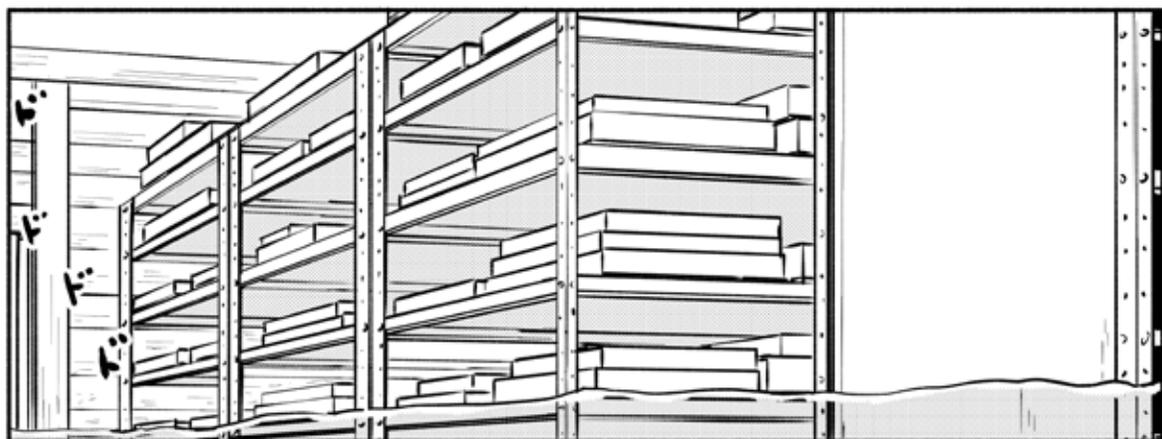
川崎市市民
ミュージアム正面

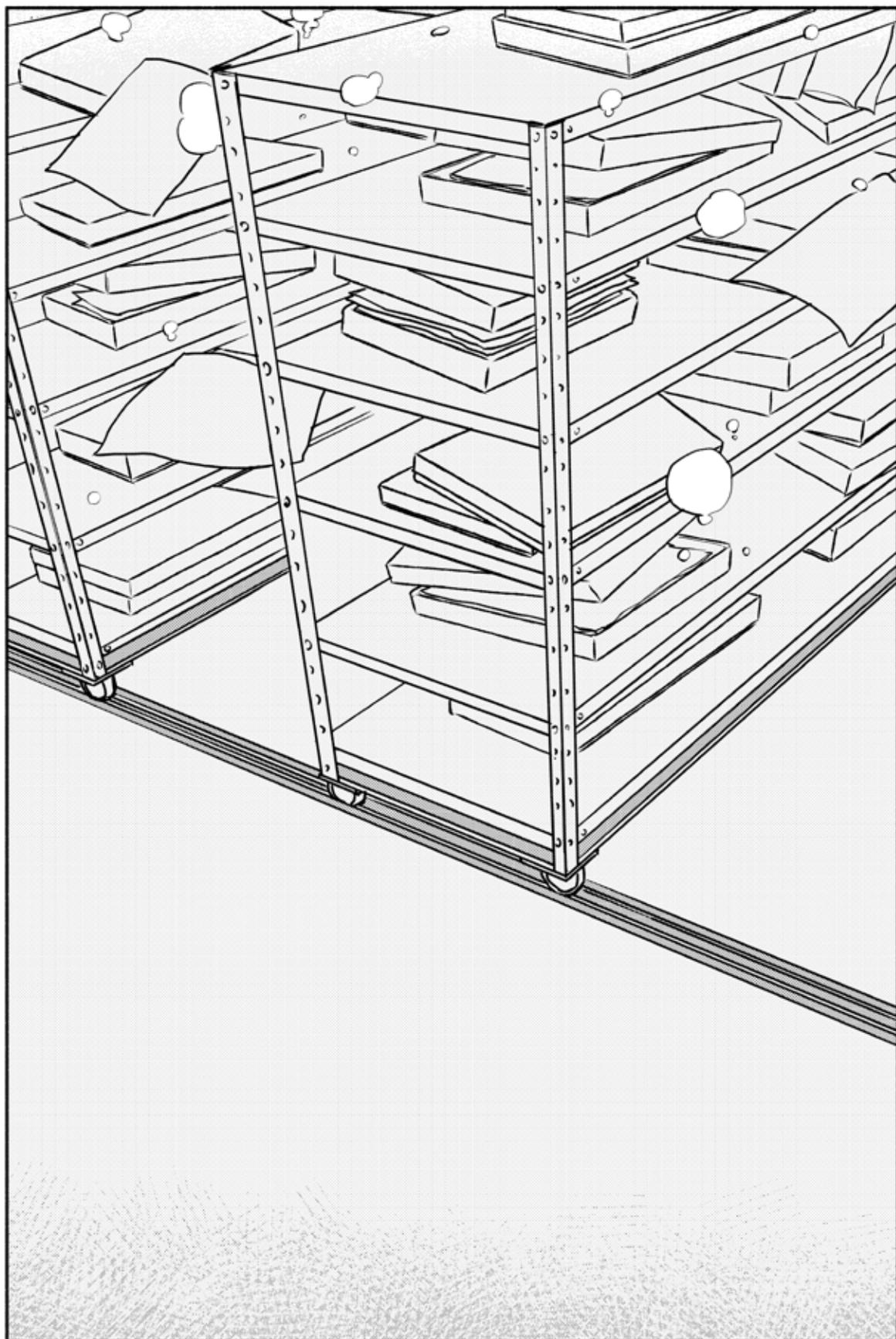


多摩川が
計画高水位を超え
ミュージアム近隣で
内水氾濫が発生

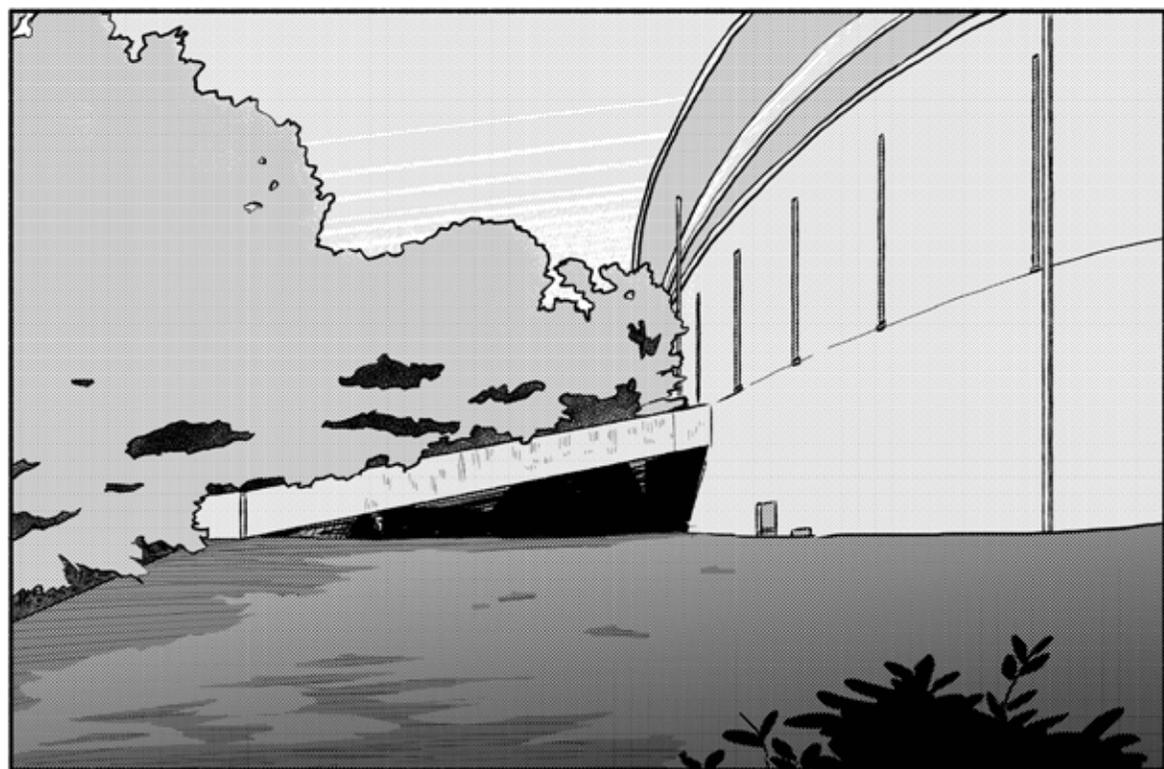
大量の雨水が
短時間に地下駐車
スペースに流れ込んだ

※被災状況については未解明な部分が多いため、想像を交えて描写しています。

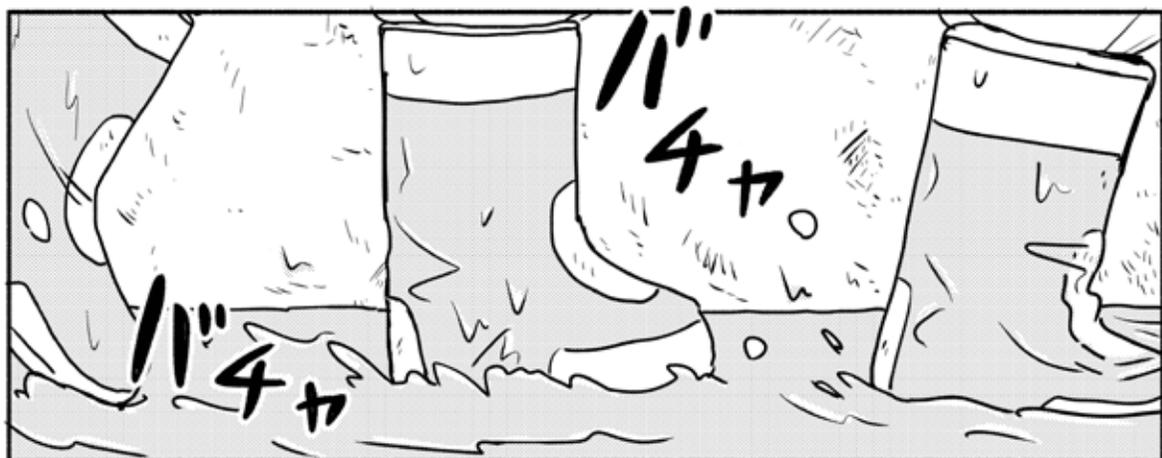


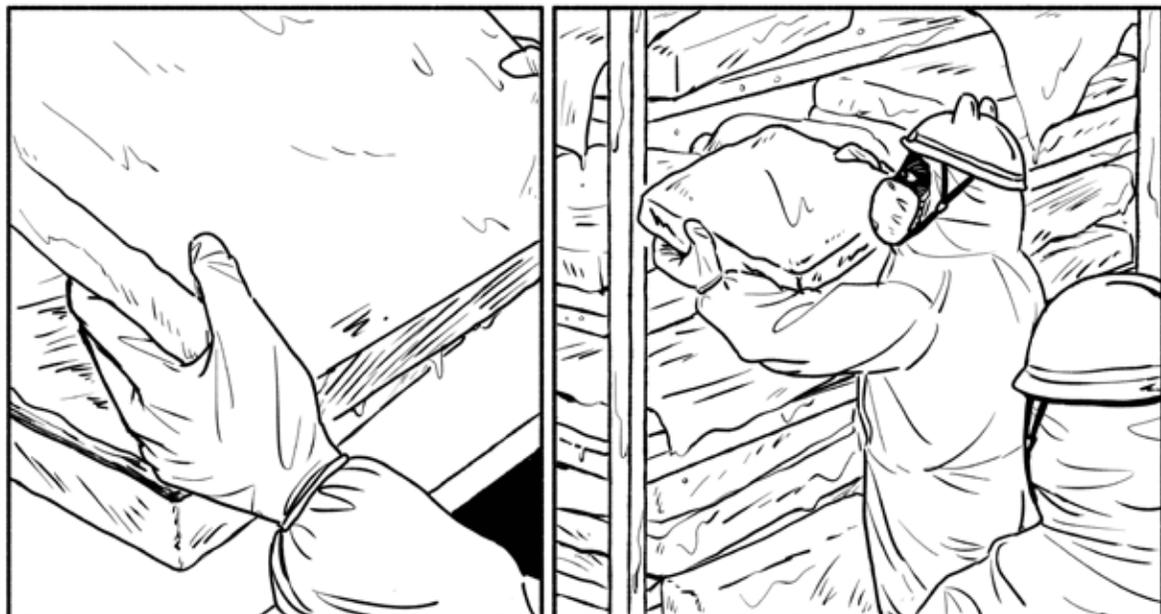


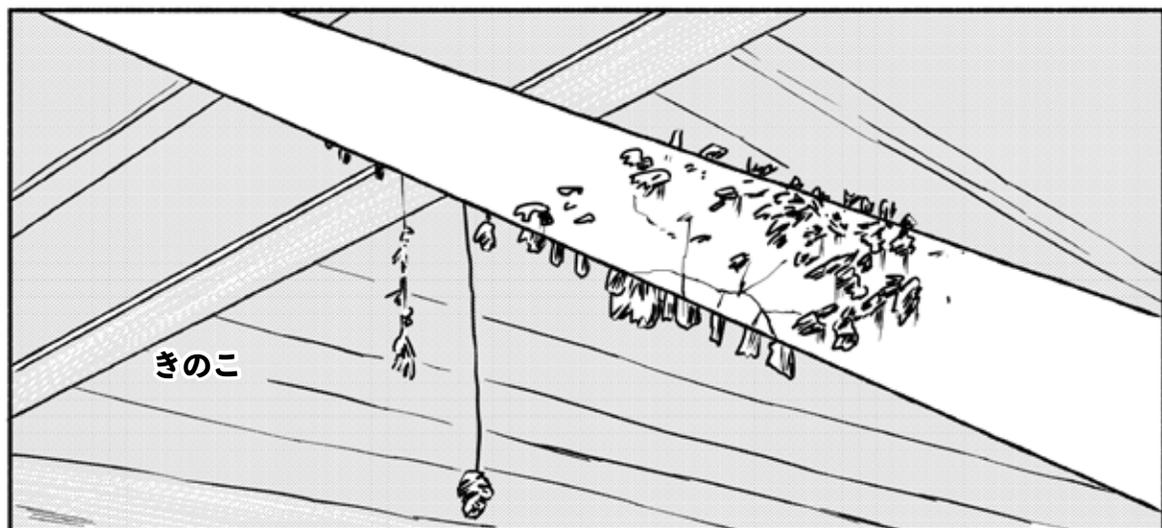
※被災状況については未解明な部分が多いため、想像を交えて描写しています。







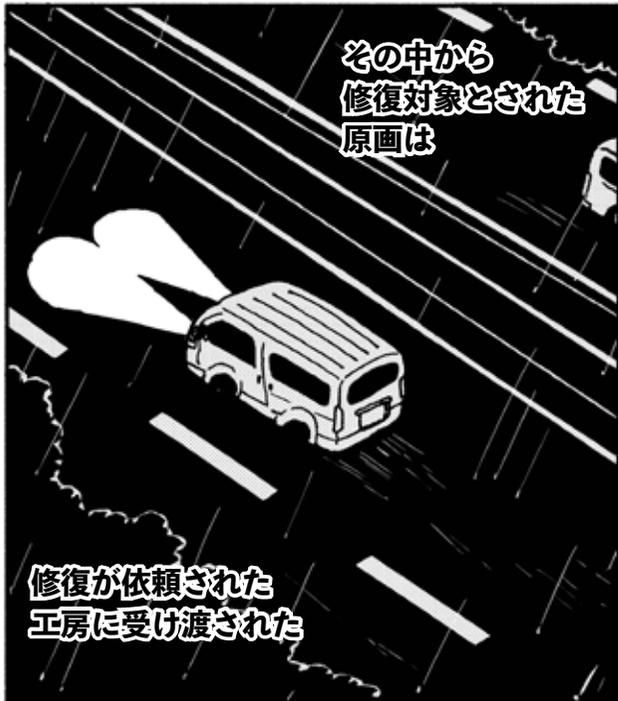






すぐに処置を行えないものは、
ミュージアム敷地内に
設置された冷凍コンテナに
収容されて冷凍され

浸水被害にあった
漫画原画のうち
一部は乾燥処理



その中から
修復対象とされた
原画は

修復が依頼された
工房に受け渡された

